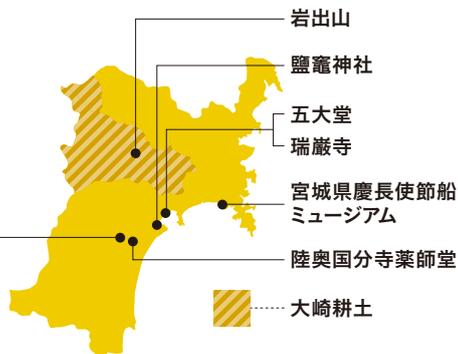


MIYAGI



写真提供：宮城県観光課

大崎八幡宮
仙台市博物館
仙台城跡



伊達政宗の生涯

※赤字はこの時代の主な出来事

永禄10(1567)年	1歳	米沢城で生まれる。母は最上義光の妹・義姫
元亀2(1571)年	5歳	この頃、天然痘を患い右目を失明
天正10(1582)年	16歳	織田信長、本能寺の変にて自害
12(1584)年	18歳	伊達家の家督を継ぐ
13(1585)年	19歳	父・輝宗、皇山義継に拉致され非業の死を遂げる
14(1586)年	20歳	豊臣秀吉、太政大臣に。聚楽第造営
17(1589)年	23歳	会津の蘆名氏と戦い勝利。南奥羽の覇者となる
18(1590)年	24歳	小田原へ参陣して秀吉に謁見 秀吉、奥州仕置を行う
19(1591)年	25歳	岩出山へ所替え。初上洛
文禄2(1593)年	27歳	朝鮮出陣
慶長3(1598)年	32歳	秀吉死去
4(1599)年	33歳	長女・五郎八姫と家康の六男松平忠輝が婚約
5(1600)年	34歳	家康より「百万石のお墨付き」下る。関ヶ原の戦いで、家康から上杉討伐を命じられる
6(1601)年	35歳	仙台城に移る
8(1603)年	37歳	家康、征夷大將軍に。江戸時代始まる
9(1604)年	38歳	大崎八幡宮の造営開始。五大堂再建
12(1607)年	41歳	鹽竈神社、大崎八幡宮、陸奥国分寺薬師堂完成
14(1609)年	43歳	瑞巖寺上棟式
15(1610)年	44歳	仙台城大広間完成
16(1611)年	45歳	虎哉宗乙死去
17(1612)年	46歳	幕領でキリスト教禁止
18(1613)年	47歳	9月、支倉常長、月浦を出航
19(1614)年	48歳	全国でキリスト教禁止 大坂冬の陣で大坂討伐を命じられる
元和元(1615)年	49歳	大坂夏の陣。豊臣家滅亡
2(1616)年	50歳	家康死去
6(1620)年	54歳	支倉常長帰国
寛永3(1626)年	60歳	北上川の改修工事、完成
13(1636)年	70歳	江戸屋敷で死去

講師：佐藤憲一氏



昭和24年、宮城県生まれ。東北大学文学部史学科卒業後、仙台市博物館勤務。館長を退任後、現在は仙台藩志会顧問などを務める。主な著書に『伊達政宗の手紙』(新潮選書)、『伊達政宗謎解き散歩』(新人物文庫)など。



深まる
一冊

伊達政宗謎解き散歩 佐藤憲一(新人物文庫)

波乱に満ちた70年の生涯で、知将であるとともに風雅の人でもあった政宗。ゆかりの地を訪ね、知られざる素顔に出会う謎解きの旅。



主催：一般社団法人東北観光推進機構、東日本旅客鉄道株式会社 後援：宮城県、公益財団法人東日本鉄道文化財団

東北歴史文化講座

TOHOKU JAPAN

JR 東日本

MIYAGI

宮城

第1部

国づくりに懸けた 政宗の夢

伊達な文化はいかにして生まれたか?



2018.2.17(SAT) 14:00

重要文化財 山形文様陣羽織(仙台市博物館蔵)

国づくりに懸けた政宗の夢 伊達な文化はいかにして生まれたか？



政宗の菩提寺である瑞巖寺。
桃山文化の粋が感じられる

1 仙台藩62万石、伊達文化のあけぼの

「当国にある最強で最良の城」。伊達政宗が江戸より仙台に招いたスペイン人のセバスチャン・ビスカイノは仙台城をそう評し、城下の規模に驚いている。彼は松島の瑞巖寺も訪れ、壮麗な建築と彫刻に感嘆の声を上げたという。政宗が拠点を仙台に移したのは、慶長5(1600)年。秀吉により岩出山に封じられた不遇から解き放たれ、政宗は国づくりに邁進する。築城、町割り、寺社の造営……、今日に引き継がれる「杜の都・仙台」の基礎がこのときから築かれていった。ビスカイノらが目にしたのは、政宗の入府から10年後の仙台。奥州の大藩として、かたちを成しはじめたころである。豊臣から徳川の世に変わったとはいえ、政権はまだ不安定な時期。戦国の世を駆け抜け、壮年期にあった政宗は、胸にさまざまな思いを秘め、理想とする国づくりを進めていった。



個性的な意匠が光る政宗の印章
(仙台市博物館蔵)



ヨーロッパ製と推測される政宗所持のプローチ
(仙台市博物館蔵)

2 お江戸100万人都市を支えた米どころの誕生

東京都江東区を流れる「仙台堀川」。かつてこの運河の北岸に、仙台藩の蔵屋敷があった。この屋敷には米蔵が二十数棟もあり、諸藩の米蔵の中でも

およそ3万ヘクタールにも及ぶ、広大な大崎耕土
(大崎地域世界農業遺産推進協議会提供)



飛び抜けた規模であったことから、江戸・深川の人々は「仙台」の名を冠して、この運河を呼ぶようになったという。政宗は、新田開発を国づくりの基幹に据え、他藩ではあまり例のない方法で、荒地や湿地を広大な穀倉地帯へと変えていった。2017年12月、世界農業遺産に登録された「大崎耕土」である。政宗以降、各地に設けられた堰や水路、ため池、遊水池などは、大崎平野において今も現役の治水・利水施設として使われている。江戸中期、仙台藩の廻米は年間20~30万石にのぼり、江戸の米相場を左右するほどだったという。今日に見る稲穂ゆれる宮城の美田は、政宗の政策により生まれたのである。

3 サン・ファン・パウティスタ号に政宗が載せた対外貿易の夢

慶長18(1613)年、支倉常長ら遣欧使節を乗せた帆船、サン・ファン・パウティスタ号が牡鹿半島の月浦(現・石巻市)を出航した。向かうはメキシコ、さらにその宗主国であるスペインである。同じ時期、徳川家康も帆船を建造し、遣欧使節を派遣したが、出航間もなく難破している。一見、政宗の造船



支倉常長の肖像(仙台市博物館蔵)

と使節派遣の構想は、家康と張り合うかのようだ。慶長遣欧使節は単なる親善使節ではない。狙いは対外貿易にある。家康にとって政宗は、警戒を怠れない存在だった。対外貿易で仙台藩が国力を増すことは好ましくないはずである。家康はなぜ、政宗の使節派遣を許したのだろうか……。結果として、対外貿易はかなわなかった。だが、使節派遣は政宗にとって国づくりの総仕上げともいえる大プロジェクトであったのだ。